

【学校教育目標】 自分とみんなのために 心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成
【目指す児童像】 気づく子 学ぶ子 元気な子

玖城のほとり



大村市立大村小学校
令和8年度学校だより
第5号
令和8年6月26日発行
文責：校長 堺 邦寿

■ 大小っ子の心を見つめる教育週間(6/25～7/1) ■

昨日から、「大小っ子の心を見つめる教育週間」が始まりました。この1週間は、①命を大切にすること、②友だちの気持ちを考えて行動すること、③みんなの笑顔があふれる大村小学校にするにはどうすればよいかを考えることをテーマに、様々な取組を行います。

06/25(木)校長講話「どうして勉強するの？」

06/25(木)道徳科授業参観(4, 5, 6年)、5年生：外部講師の方による命の授業

06/26(金)道徳科授業参観(1・2・3年)、租税教室(6年)

06/30(火)民生委員・児童委員さん学校訪問 07/3(金)戦争平和に関する講話(6年)

また、この期間の2、3校時目は学校を公開していますので、ご都合がよいときに足を運びいただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

<校長の話(6/25)>

みなさんは、どうして勉強するのですか。そのわけは、人それぞれあると思います。私は、こう思うのです。それは「みんなが幸せになるため」、「平和な世界をつくるため」に勉強するのだと。「みんなが幸せになる」とは、自分はもちろん、自分の周りにいる人みんなが、いつもここに笑顔で過ごせるようになることです。学校では、友だちと一緒に遊んだり、学校の外で勉強したり、高学年になると、違う学年の人と一緒に、委員会やクラブの活動をしたり、いろんな勉強をします。多くの人との関わりを通して、自分のことだけでなく、周りのみんなのことも考えることの大切さを勉強しています。自分のことだけでなく、みんなのことも考える勉強を一生懸命すると、どんな勉強もよくわかるようになります。していいこと、してはいけないことがわかるようになって、友だちと仲良く過ごすことができるようになります。みんなが幸せに過ごせるようになります。人は、ときどき、意地悪な気持ちや弱い気持ちに負けそうになります。そんな時、みんなが幸せになるために勉強していることを思い出して、みんなの笑顔があふれる大村小学校をみんなの力でつくっていきましょう。

★ 集団下校 ～ 保護者・地域の皆様にお世話になっています ～ ★

本校では、今年度、集団下校を年間5回行うこととしており、第2回目を、6月11日(木)に行いました。コロナ禍以降、この活動もなかなかできずにいましたが、少しずつ回数を増やしたり、実施方法を見直したりして、子どもたちの安全安心を守るようにしています。

集団下校の際には、地域の方々(スクールガードさん、町内会長さん、老人会の方々等)、PTA地域委員さん方が、子どもたちと一緒に歩いてくださり、下校の様子を見守っていただいています。6/11には、13名の方々が、お忙しい中ご協力くださいました。ご紹介できなかった人もいますので、もっとおられたことと思います。

保護者や地域の皆様にご協力いただいたの集団下校は、私が教頭としてお世話になっていた頃(17、18年前)もあり、ずっと続いています。おかげさまで、昨年度・今年度と交通事故に遭うことなく、子どもたちの安全安心が守られ、元気に過ごせていることは、保護者・地域の皆様のお力添えがあるからこそだと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。



※裏面に、木村指導教諭作成の「みんなちがってみんないい」を載せています。ご覧ください。

～みんなちがって みんないい (その3) ～

今回も昨年と同じ「脳の発達」についてお話しします。人間の脳は、黙っていても発達するものではありません。脳の発達には段階があり、望ましい発達を促すために必要な環境・要素を与えることが大切です。2001年に発表された「ユニセフ世界子供白書」の序文には「子供が3歳になるまでに脳の発達がほぼ完了する。新生児の脳細胞の増殖は加速し、シナプス（神経細胞の接続部）は急速に拡大して、終生のパターンが作られる。」と報告されています。

文教大学教授で小児科医の成田奈緒子先生は、「脳の発達の3段階」について「良い発達は順番とバランスが大切だ」と言われています。その3段階について簡単に説明します。

第1段階は「からだの脳」の段階です。これは「食事」「呼吸」「睡眠」「姿勢の保持」「運動機能」など、生きるために必要な機能を担う脳（脳幹・大脳辺縁系）の働きを確立する段階で、0歳～5歳くらいの間でほぼ完成されます。第2段階は「学習脳（大脳皮質・小脳）」の段階で、「言語活動」「微細運動」「学習能力」「スポーツ能力」などの知能を発達させます。これは1歳～18歳くらいで成長が見られますが、成長のピークは6歳～14歳頃で、思春期が終わるくらいまでと考えると分かりやすいです。第3段階が「こころの脳（前頭葉）」の段階で、「思いやりの心・想像力の育成」「社会性の伸長」など人間らしい思考や感情を確立する段階です。これは10歳～18歳くらいに成長し、ピークは14歳～18歳頃だと言われています。つまり思春期から青年期に人格の最終形成が行われることになります。脳はこの順番に成長していきますが、乳幼児期から学童期（0歳～14歳）くらいまでの脳の育ちが特に重要です。第1段階の「からだの脳」は、脳の発達全ての土台になります。「早寝早起き」「日中は体を動かし、様々な体験や感覚を味わう」など、「当たり前」と思われることをしっかり保障することが重要です。しかし最近、この部分が十分に育たないまま、第2段階が重視されていることが多くなりました。早期から塾や習い事に通わせるなど「学習脳」を育てようとするが増えてしまい、小学校高学年以降での学習の伸び悩みや社会性・規律規範順守の道德性の希薄さ、忍耐強さな

どに問題が起こりやすくなっています。土台となる脳を育てるためには「様々な体験」や「感覚入力」が重要です。この感覚は運動や体験から得られます。「視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚」などの5覚と、筋肉や関節で感じる「固有覚」、内耳にある三半規管で感じる「前庭覚」からの感覚で育っていきます。「きれいだね」「冷たいね」などの言葉と体験も重要なのです。乳幼児～学童期が最も脳が育つため、日常生活のすべてが大切な経験になります。ところが、この育ちには個人差があり、日常の経験で十分に育つ場合と、意図的に感覚入力を増やしてあげなければいけない場合があります。子ども時代の貴重な体験が、その後の学習能力や社会性に繋がるのです。成田先生は、これらの感覚は脳の中で情報を伝達するシナプスの働きにも良い影響を与えていると言われています。ところが前述したように、現代（およそ10～20年ほど前くらいから）は、塾や習い事だけでなく早い時期からゲームやメディアを与えることが多いため、全体的な脳の育ちのバランスを崩している子が少なくありません。また、これら生活習慣の変化により、入眠時間の遅れや睡眠時間の不足も大きな問題です。青山・表参道睡眠ストレスクリニック院長の中村真樹先生は、「寝不足の子どもは前頭葉の働きが低下する」と注意喚起されています。前頭葉は「人間が人間らしく在る」ための重要な働きをしている大切な脳の部位です。前頭葉は思考や感情、コミュニケーションなど理性を司る働きがあるため、前頭葉の働きが弱いとまだと、「集中力・意欲の低下・認知能力の遅れ・イライラ・他に対しての攻撃性」が現れます。このような状況が続くと「学習脳」と「こころの脳」の育ちにも影響が出てしまいます。ゲームやネット等の依存治療専門の外来を初めて開設した久里浜医療センターの樋口進名誉院長によると、ゲームやメディアに接する時間や頻度が多くなることで、脳の前頭前野が十分に発達しないため、行動を抑える「理性の脳」の働きが弱ってしまい、依存症に陥りやすいとのこと。「歩くこと」も脳の成長にとって重要な運動で、「徒歩通学」にも重要な働きがあります。運動や外遊びは筋力や持久力が伸びるとともに、脳への大きな刺激が働き、健全な脳の成長を促します。「脳の発達」は環境要因で変わります。休日の過ごし方など少しだけお子さんの生活を見つめ直してみませんか？